



## 製造業を中心に改善傾向にあるが依然として厳しい状況が続く見通し

当所では、岐阜市内の中小企業を対象に、景況調査を実施しています。この調査は、市内の中小企業の景況ならびに経済動向に関する情報の収集及び分析を行い、中小企業関係機関の施策及び指導、ならびに一般企業者の経営の参考にすることを目的としています。

対象期間 ▶ 平成22年7～9月

調査時点 ▶ 平成22年9月1日

調査対象 ▶ 岐阜市内の中小企業106社（有効回答数91社、回収率85.8%）

D I 値 ▶ 景気動向を現す景気早見表

### D I（ディフュージョン・インデックス）とは？

D Iは判断の状況を示す。ゼロを基準に、プラスの値は景気の上向き傾向の回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向の回答割合が多いことを示す。

◎D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

### 管内景況の概要（業種全体）

今期（平成22年7～9月期）の管内中小企業の景況を見ると、業況判断D I、売上額D Iのマイナス幅が縮小したのに対し、在庫D I、資金繰りD Iのマイナス幅が拡大した。

来期（平成22年10～12月期）の景況予想は、経常利益（採算）を除く全てのD Iのマイナス幅が拡大し、経常利益（採算）D Iはマイナス値が変動しない見通しとなっている。

## 業況

全業種のD I値は、△58.1と前期（△62.5）に比べると4.4ポイントマイナス幅が縮小し好転した。来期は、今期よりやや悪化すると予想される。業種別にみると、製造業、サービス業のマイナス幅が大幅に改善した。建設業、小売業は悪化が目立ち、依然として厳しい状況である。

## 経営上の問題点

経営上の問題点としては、多くの業種で「需要の停滞」が上位にあげられ製造業・小売業において第1位となっており、内需の停滞が鮮明になってきている。また、卸売業において「販売単価の低下・上昇難」、建設業において「請負単価の低下・上昇難」が第1位となっており、依然として製品（請負）単価の圧縮を迫られているものと推測される。サービス業は前回に引き続き、利用者のニーズの変化が一番の問題点となっており利用者ニーズに柔軟に対応することが課題となっている。

●詳細は当所ホームページをご覧ください。

(<http://www.gcci.or.jp/>)

●この調査結果をまとめた書面をご希望の方はお申し出ください。

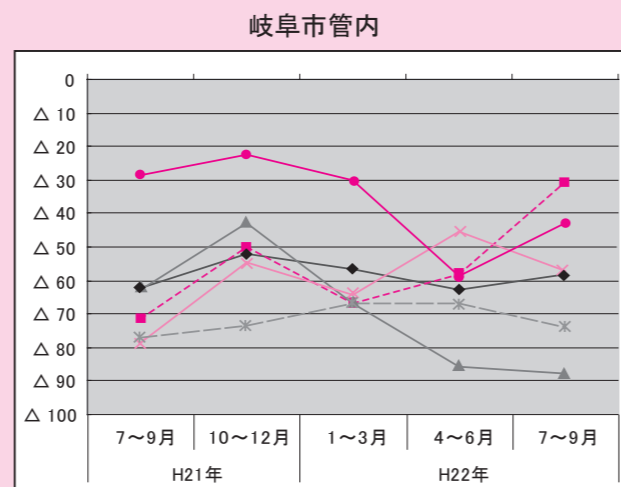
●調査にご協力いただける事業所はご連絡ください。

【お問合せ】

当所 振興課

TEL 058-264-2135

### ■業況判断D I



### 中部（富山・石川・岐阜・愛知・三重）

